

青梅市文化財ニュース

第 1 7 2 号

平成14年2月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

午 年 に 因 ん で

午年に因んで青梅市内に有る「馬」の文字が付く地名を探してみると「馬引沢」^{まひきざわ}「馬口岩」^{ばくちいわ}「馬頭観音」^{ばとうかんのん}が目に入りました。そのキーワードを基に歩いてみることにしましょう。

馬引沢は畑中と和田町を分けるように流れている沢です。吉野街道を西に進み、明治橋を過ぎてすぐに、左へ入って行く秩父鎌倉古道を辿るハイキングコースの入り口があります。

多摩川は西から東へ流れて行きますが、この沢は南東から北西に流れているので「三田の逆さ川」と言われていたということです。明治橋から馬引沢に沿ってゆったりした登り道を20分ほど歩いて行くと、右に小屋があり、その先に「馬口岩に至る」とうっすらと書かれた道標が目に入ります。この「ばくちいわ」の「ばくち」とは「博打」のことだと言われています。その昔、この大きな岩のところで博打好きな人達が集まって打っていたのでしょうか。こんなに奥深く入ってしなくても(?)と思うようなところですが、今では道が荒れていて岩に辿り着くのは難しい状況です。その道標を右に見ながらさらに先へ歩いて行くと、車が通れそうな舗装した道ですが、ちょっときつい坂道になります。そこを頑張って登って行くと馬引沢峠に出ます。今まで静かな山歩きでしたが、急に騒音が聞こえてきます。日の出町の二ツ塚廃棄物広域処分場が峠の向こうに広がるからです。立入り禁止のフェンスに沿って右（西方向）に1～2分歩くと、馬頭観音様がひっそりと処分場を見下ろすように立っています。この馬頭様は像高40cmほどのものですが、安永3年(1774)の甲午^{きのえうま}の年に立てられ、「牛馬安全・大久野」と彫られています。

馬頭観音像は本来、憤怒相^{ふんぬそう}（顔に怒りの表情を表している）で三面^{さんめん}（顔が3つ）三目^{さんもく}（各顔に目が3つ）八臂^{はっぴ}（手が8本）で頭部に馬の頭を載せています。しかし、この馬頭様は聖観音と同じように合掌した二臂の、おだやかなお顔の観音様で頭の上にかわいい馬の顔が載っているお姿です。青梅市教育委員会刊行の「青梅の石仏」によると、市内には116体以上の馬頭観音が有るということです。馬頭様を巡るだけでも市内の隅々まで歩くことになり

（裏面につづく）

ますが、それだけ青梅では馬や牛に助けられて生活をしていたことがうかがえます。さてこの馬引沢峠の馬頭様を拝んだら、フェンス沿いにしばらく歩き、そこから分かれるように右に登って行くと「赤ぼっこ」や「天狗岩」に至ります。「馬」の文字との関係はなくなりますが、見晴らしが素晴らしいのでぜひ寄って行きたいところです。特に天狗岩は一度下ってまた登るという道中ですが、眼下に広がる市内の眺望やその向こうに見える山並みが、汗を拭くことをしばし忘れさせます。

市内には、ほかに高水三山の岩茸石山いわたけいしやまから惣岳山に向かって南に下りたところに「馬ぼとけ峠（標高722mの市内で一番高い峠）」があります。午年の今年、地名の「馬巡り」はいかがでしょうか。

（文責 棚橋 正道）